

平成 24 年度まちづくり懇談会会議録【加茂地区】

日 時 平成 24 年 7 月 30 日 19:00~21:00
会 場 加茂地区センター
参加者 89 人

市長からの「菊川市が進めるまちづくり」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

(1)「まちづくり全般」に関する意見交換

地区自治会からのご意見・ご質問

白岩下自治会より：西方の J R を跨ぐオーバブリッジについて

ラック前の道(加茂大通り)からだと西方方面には、東名側道で便利に行けるが、国道 1 号を使って東方面へ行く場合は、堀田の狭い J R ガードを通過して迂回して行かなければならないので、運動公園までは広い道路が出来ているので、J R を跨ぐオーバブリッジが出来れば非常に、便利になって交通量も増えると思います。財政状況の厳しい中、膨大な費用が掛かり大変と思いますが、必要な道路と思いますので早期の実現を望みます。

総務企画部長からの回答

最初に「西方の J R を跨ぐオーバブリッジ」についてですが、J R のオーバブリッジ区間を含む西方高橋線は、主要地方道掛川浜岡線のバイパスとして位置付けられ、現在奈良野から高橋区間において早期供用開始を目指し、整備を進めております。

昨年のまちづくり懇談会でもご説明いたしましたが、運動公園から J R を跨ぎ伊達方方面へ向かう県道へ接続する区間については、掛川方面へのアクセスをより効果的なルートとするため、静岡県や掛川市とルート選定や整備方針について検討を行っております。

実施にあたってはクリアすべき課題も多く、また、多額の事業費が必要となりますので、静岡県へも協力をお願いしていきたいと考えております。

引き続き、静岡県や掛川市とともにルート選定や整備方針についての検討を進めてまいります。今しばらく協議時間がかかりますので、ご理解願います。

白岩下自治会より：太陽光発電事業について

菊川市の人口は市創立時期より 1,200 人程減少しています。このままでは人口も税収入も衰退していく懸念があります。そこで、市の事業運営で休耕田・休茶畑などの空き地を利用して太陽光発電事業を行えないでしょうか。電力不足を補い、それが原発に頼らなくても良い安心・安全な生活の礎になればと思います。

総務企画部長からの回答

政府では東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故の反省を踏まえ、エネルギー・環境戦略の見直しを行っており、今後、太陽光発電を含む再生可能エネルギーによる発電は増えていくものと思います。

先程、市長から説明もありましたが、浜岡原発の運転停止に対して、市としても電力の安定供給を目指すべく、節電や太陽光、小水力などの新エネルギーの推進に取り組む考えであります。

具体的には

住宅用太陽熱利用、太陽光発電設備設置への補助

公共施設への太陽光発電設備の実施

大井川農業用水を利用しての小水力発電の検討

民間事業者による大規模太陽光発電施設建設（メガソーラー事業）への協力などに取り組んでおります。

市が、休耕田等を活用して太陽光発電事業を行えないかのご質問ですが

市として直接事業に取り組むのではなく、民間事業者に協力する形で進めて行きたいと考えております。1メガ、1,000kwh当り約4億円から5億円と言われる多額の事業費が掛かるため、市が直接事業に取り組むことは財政的な負担が大きく、民間でやれることは民間の力をお借りし、そこに市が協力する形で進めていきたいと考えております。

既に、市南部地域では民間事業者の方が、事業所の遊休土地を活用した2,000kwhのメガソーラー計画が進められており、先日公表がなされたところです。また、他にも民間事業者による遊休土地を活用した計画の検討も進んでおります。

なお、ご質問の農地でのメガソーラー事業については、休耕田であっても農地法による農地転用が必要となっており、事業化にあたってクリアすべき課題の一つとなっております。

白岩東自治会より：東名北側の排水路の改善と併せて東名ガード内の水路と道路の整備と改修

東名のガード下道路は加茂小学校・菊川西中学校の通学路となっております。

近年の異常気象に伴う集中豪雨による道路冠水・住宅浸水の危険性が高く大変不安を抱いています。

皆さんが安心できるよう、早急に北側排水路の改善とガード下水路の改修をお願いしたい。

総務企画部長からの回答

近年、集中豪雨による浸水被害が市内各地で起こり、市民の皆様から対策についてのご意見・ご要望をいただいております。今回、ご要望をいただいた、東名ガード下及び北側の排水路については、東名高速道路の築造時に設置した水路であり、その後の周辺土地利用の変化と豪雨による一時的な出水量の増加による冠水被害と思われます。

まず、現在の水路の状況を確認するとともに、今後の水路の改修については、多額の事業費も必要となるうえ、水路の断面・勾配・流域面積等の調査にも時間を要します。また、工事内容においては東名高速道路のボックスの構造なども関係するため、東名を管理するネクスコ中日本とも協議を行い、どのような改修が可能か検討していきたいと思っておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

白岩段自治会より：コミュニティバスの路線が大頭龍経由にできないか

近年、高齢者が増加し、急な坂道の登り下がりが大変な負担となっております。路線が大頭龍経由に変更される事で負担も軽減され、自立した高齢者として生活できると思うがどうでしょうか。

総務企画部長からの回答

貴重なご提案ありがとうございます。

コミュニティバスの路線・バス停留所の位置・時刻表の変更につきましては、市民代表の方を始め、国や県、バスやタクシー事業者からなります「菊川市地域公共交通会議」において、お客様の利便性や運行の安全性等を総合的に協議され、決定をいただいております。

ご提案のように、大頭龍経由に路線を変更する場合、たいへん狭く急な坂道を運行すること・大頭龍から下ってきたところの三叉路の見通しが悪いことから、運行の安全確保の点から見まして、対応は難しいと考えております。

ご希望に添えず恐縮ですが、現在設置されている最寄りの「白岩下」又は「坪井橋」停留所をご利用くださいますよう、よろしく申し上げます。

白岩段自治会より：若者の結婚について

隣の掛川市では若者の出会いの場を、機会があるごとに設けていると聞きますが、当市においてもその様な出会いの場を企画して、結婚する若者を増やすことが必要ではないのか。

総務企画部長からの回答

国の調査によると、平成22年の日本人の平均初婚年齢は、男性30.5歳、女性28.8歳で、30年前の昭和55年と比べると、男性が2.7歳、女性が3.6歳、遅くなっていると公表されています。また、菊川市の平成22年国勢調査による30歳以上の未婚率は、男性16.8%、女性7.0%で、10年前の平成12年と比べると、男性が3.8ポイント、女性が2.5ポイント増えており、晩婚化、未婚者の増加が進んでおります。

結婚を後押しするような事業については、現在、市では社会福祉協議会による結婚相談を定期的に行い個人または家族等の相談に乗っているところです。出会いの場の提供、いわゆる婚活イベント等は、市が主体となる形では実施しておりませんが、これまで市内では、菊川市商工会、JA遠州夢咲、市青年団が実施しています。他市での状況については、民間、実行委員会形式、NPOなどが主催している例が多く、お話があった掛川市では、地区コミュニティ的な組織が中心となって実施されています。

こうした民間、あるいは地域の活力を利用した出会いの場の創出事業が多く行われることを期待するとともに、市としてどのようなお手伝いができるのか、などを研究していきたいと考えております。

小川端自治会より：加茂橋架け替え及び宮の西土地区画整理事業について

加茂橋の架け替えの必要性を確認しているか？市内にある他の橋と比較して架け替えの必要性の優先順位は？

県当局と加茂橋架け替えを交渉中と聞いているが交渉状況はどうか？また県道から市道に変更された場合、架け替えの可能性はあるのか？

加茂橋付け替えが出来ない場合、宮の西区画整理に大きな影響がないか(仮換地の土地評価額・減歩率等)？また取付け道路が完成しているが無駄にならないか

平成26年度には、区画整理事業が完了と聞いているが現在の進捗状況と完了までの事業工程は？ 予定通り完了する見通しか？

総務企画部長からの回答

一つ目の「加茂橋架け替えの必要性と優先順位」

二つ目の「県道から市道に変更された場合の架け替えの可能性」についてで

すが施工中の宮の西土地区画整理事業による周辺開発が進み、バイパスが整備され、交通の主流は加茂大通りになったわけですが、依然として加茂橋の交通量は多く、加茂橋を含む道路整備の必要性は感じておりますので、朝日線の整備方針を模索し、調査・検討を進めてまいりたいと考えております。

また、アサヒテック南工場の前を通る県道の管理を県から市に移管するために県と協議を行っており、加茂橋の耐震性については、平成9年に主桁補強・落橋防止等の補強工事と平成21年に高欄の補修工事を実施していただき、現時点での必要な対応は完了していると県から聞いておりますので、現位置での架け替えの予定はございませんが、先ほども申し上げました通り、朝日線の整備方針を模索するなかで、新橋の設置について調査・検討を進めてまいりたいと考えております。

三つ目の「加茂橋が架け替えられない時に宮の西土地区画整理事業への影響はどうか？また、新橋への取付け道路が完成しているが無駄にならないか？」についてですが、加茂橋から新橋架設予定箇所までの間に接している数名の土地所有者の方のみ、土地評価等に影響がありますが、宮の西土地区画整理事業全体の評価には大きく影響はないものと考えます。また現在、築造されております新橋架設予定箇所までの取付け道路については、区画整理区域内の道路は新橋の計画に影響しない範囲で整備を完了し、将来計画に備える考えでおります。

四つ目の、「宮の西土地区画整理事業の進捗状況と完了時期」についてですが、平成23年度末までの事業進捗率は90%でございます。本年度は、主に宮の西公園の整備を行ない、平成25年度に川原公園の整備と市道内田加茂線の西側街区の整備を予定しております。平成26年度に土地の測量と登記に必要な事務手続きを行ない、平成27年度には区画整理組合を解散する手続きを行なう予定でございますので、現段階では平成27年度を事業完了年度と考えております。今後ともご理解とご協力をお願い致します。

西袋自治会より：自治会における河川愛護活動について

自治会の河川愛護活動に伴う身体への負担及び危険度が大きい。これを軽減するために堤防の斜面も刈り取ることができる自走式大型草刈機を導入して自治会に貸し出してほしい。

総務企画部長からの回答

自治会の皆様には日頃より、河川愛護活動にご協力いただき感謝申し上げます。大型草刈機につきましては、昨年、河川改修促進連合協議会で1台購入し、貸出をしておりますのでご利用いただきたいと思います。

また、8月の広報お知らせ号に大型草刈機の貸出について掲載いたしますので、ご覧ください。

長池自治会より：現在、南部農村公園に計画されている菊川市幼保園についての要望

スクールバス導入の検討をお願い致します。

現在の加茂幼稚園は加茂地区のほぼ中央に位置して、通園には非常に利便性に富んでいます。現在計画の幼保園の場所は加茂地区からは遠方であるため、通園には不便を感じます。また、課外活動、非常時の輸送手段として有効利用が考えられます。

防犯対策について

南部農村公園の周辺は建物などなく非常に寂しい場所のため、市施設、出先機関等を隣接地に計画・検討をお願い致します。また、開園当初には難しい場合は警察・民間警備会社によるパトロールの強化に努めて頂きたい。

防災対策について

幼保園は防災対策を十分考慮して計画されていると思いますが、想定外の津波等が考えられます。つきましては、避難場所として築山など園児が通常は遊び場として利用できる様な、高台の施設を建設して頂きたい。

総務企画部長からの回答

老朽化が進み保育環境に劣る加茂幼稚園と内田保育園をあわせた公立幼保園として、平成23年度から各種調査や建築設計等を進めております。平成24年度については、建築実施設計を実施し、一部造成工事に着手したいと調整を図っているところであります。

一つ目のスクールバスについては、現状において、市内の特定の園に限定した実施はいたしておりません。当園に限らず、市内全体のバランスから考えても、実施する計画は持っておりません。しかしながら災害等非常時における園児の輸送手段等の対策については、当幼保園に限らずに、防災対策の全体の中で今後も検討したいと考えております。

二つ目の防犯対策としての市施設、出先機関等の設置検討ですが、公共施設やその他施設については、市全体を見渡したなかで検討する必要があると考えますので、長期的な展望で考えていきたいと思っております。

また、パトロールの強化については、幼保施設全般における対応を検討するなかで、施設状況に応じた防犯対策として、警察のパトカー巡回や市職員による青パト巡回を検討するとともに、防犯カメラ設置など警備会社への警備委託を考えています。

三つ目の防災対策の想定外の津波等については、市としても国の第4次被害想定を発表を待っているところです。現時点では、この場所への津波の到達は想定いたしておりませんが、第4次被害想定の結果により、施設建設に及ぼす影響についても十分考慮してまいります。

また、要望していただいている築山についてですが、現状では子ども達の遊び場として、築山の整備を考えております。

三軒屋自治会より：市内ホテル業者及びゴルフ場との災害協定締結について

東海・東南海・南海の地震が想定されていること及び最近の地球温暖化に伴い、局地的な豪雨が予想され、一級河川の菊川も氾濫が考えられ、加茂地区の避難所は総体的には低く、幸い加茂地区にはホテルが3店あり、早期に災害協定を結ばれたら如何でしょうか。

ゴルフ場の風呂活用について

地震の被災者は長期間風呂に入れない生活が余儀なくされますので、ゴルフ場の風呂を開放して頂くよう要請されたら如何でしょうか。阪神淡路大震災の時、風呂開放は大変喜ばれたと聞いています。

総務企画部長からの回答

一つ目の「地震やゲリラ豪雨、台風など自然災害が発生した場合の避難地・避難所として、加茂地区にあるホテルと災害時相互応援協定が締結できないか」についてですが、昨年おきました東日本大震災の時には、福島県や東北地方からの避難者を受け入れていただく施設として、市内ホテルにご協力をしていただきました。実際には避難者の受入れはありませんでしたが、災害時等ではこうした支援を受けていただける施設として考えております。

しかし、地震により市全域が直接被害を受けた場合には、ホテルの被害も考えられるため、施設の利用が可能かどうかも含め、地震災害や水害に対する避難所・避難地として受けていただくことができるか、ホテル関係者と協議を進めていきたいと考えております。ご提言ありがとうございます。

二つ目の「ゴルフ場と災害時における協定等の締結」については、市内にある2つのゴルフ場と「災害時における協力に関する覚書」をそれぞれ平成22年4月に結んでおり、住民の避難地として市に施設を提供していただくこととしております。しかし、施設の使用にあたっては地震による建物への被害状況により使用できないことも考えられますが、施設の利用が可能であればお風呂などの利用をお願いしたいと考えております。

会場からのご意見・ご質問

西袋自治会：(男性)

加茂に一種低層住宅の網をこの地区にかけていただきましたが、その時に下水道の整備が遅れて、区画整理事業の進捗状況が遅れたということがありましたけれども、この住宅地化した場所から幼稚園を南へ移動する、浜岡方向へ移転するのですが、移転することによるメリットとデメリットをお伺いしたい。それはなぜかという、防災について、市の防災対応は前回の地震の時に完全に機能しない、不十分だという対応しかできなかったのではないかと思う。その後、それをどういう対応をされるのか。はっきりしたアカウンタビリティがされていない。その上で、今回の防災の拠点である消防関係も浜岡側へ移す。津波等とかじゃなくて、浜岡原発が不安だということをも市長さんもおっしゃっていましたが、浜岡原発が止めてあるから安全ということではないと思う。地震があれば同じで、冷却ができなくなれば必ず事故が起こる。なぜそのような時に、防災拠点も幼稚園もいちいち南へ移して、それが本当にメリットにつながるのか、それによってデメリットがうまれないのか、その辺をどのように市のまちづくりを考えているのか、これから南側を宅地化して行って農村部も全て一種住宅地にして全部宅地化するという話なのか、その辺が良くわからないのでお伺いしたい。

企画政策課長

ご質問していただきました内容について確認させていただきますが、幼稚園や消防署の公共施設が、災害が心配される時期に、南に移っていくメリット、それから将来のまちづくりをどのように考えているかというご質問でよろしいですか。

西袋自治会(追加説明)：(男性)

説明させていただいてよろしいですか。実は今月の初めに、南三陸町へお邪魔して、被災状況を見させていただいてきたのですが、南三陸町は土地が全然使えない状態で、南三陸町の方があそこの場所でサンサンマーケットだかにここマーケットだかをやっていますが、隣町へ仮設住宅地を造って、そこから通って、そこでやられている。これから大型の計画する土地というのは、将来仮設住宅を建てるとか、避難する場所になる。わざわざ危険な場所に作るのが理解できない。どういう趣旨で、どういうメリットがあって移転するのかお伺いしたい。

企画政策課長

まず、防災が南へ移ったということですが、先ほど南三陸町へ行かれたという話しですが、実は菊川市でも市長が、昨年地震があったすぐ後の4月に大槌町、山田町へ行かせていただきました。その時に、遠野市の方から沿岸部の方に入っていったわけですが、遠野市が防災拠点として沿岸部の支援の基地となっていました。防災時に支援の基地になりえるような拠点が必要だということとその時に認識させていただきました。それから山田町、大槌町へ行った時に、役場の行政機能がひどい状況でした。特に役場が流された大槌町につきましては、職員も疲労困ぱいの中で苦労されていた。行った感想としましては、防災後の拠点となる施設がしっかりしなければならないということを通認識した。防災の拠点としてしっかりとした施設となれば、当然、市だけの問題ではなく、市外から応援に来ていただく。自衛隊、警察の関係者の方、他の行政機関から応援に来ていただく方も必要ですので、ある程度広い場所の確保が必要だということ。それから、交通的にある程度便がいいところということになります中で、先ほど市長から説明があったように、防災拠点を菊川のあのところに設けようということになったわけです。津波につきましては、現在、第3次の想定と第4次の想定を待っているところですが、今の奈良野の防災拠点につきましては、あそこまで津波が到達することはないと想定しています。あと、これから市街地が南の方へ行くのかということですが、当然合併していきますので、ある程度中心の方にとすることは想定されるわけですが、奈良野の道路に面したコンコルドの南については、農振地域で、農業をするために投資したところでもありますので、あそこをすぐに市街地化するのは、法律的に無理なので、時間をかけたなかで、市の将来をかけたなかで、あそこのまちづくりについても考えていくということになると思います。今のまちづくりについては、加茂地区の宮の西、それから南部第1、南部第2が中心かなと思います。

西袋自治会(再質問)：(男性)

メリット、デメリットを聞きたいのですが。それこそ福島なんかもそうですが、1キロの違いで放射能がものすごく違うというのを聞いていますので、なぜわざわざ近い方へもっていくのか。そこが分からない。津波を心配しているのではないです。

企画政策課長

浜岡原発について考えると、南へ持っていくことへのご心配だと思いますが、この当たりについては、今後防災計画の中で真剣に考えなければならない問題

だと考えています。

西袋自治会(再質問)：(男性)

市長さんもおっしゃったけど、浜岡原発を信用していないと言ったのに、なんでそっちに行くのか理由を聞きたい。

企画政策課長

信用していないということでございますけれど、運転停止中か運転中かによって、防災計画が変わってくるのかなと思います。福島原発は運転中の事故でしたので、ああいう状況になったわけですが、運転停止だと多少の余裕の時間は持てる。当然、地形的な問題、風向き等の問題も含めて、今後原子力防災については検討していかなければと考えています。

三軒家自治会：(男性)

私ども幼保園を考える会で、春先に4,200人ほどの署名を持って、建設場所を考え直して欲しいと申し上げたのですが、無視されている状態です。一方では、菊川広報に説明を流せばいいのかという形であったのですが、私が申し上げたいのは、加茂地区の人たちが、あの地に、西袋の人のメリット、デメリットの話もありましたが、あの土地で本当にみんながいいんだよと言えればいいですが、だけど、自治会に話をしたと市は言いますが、住民全員にそういった話はいき渡っていないんですよ。だから今一度真の民主主義というものでいくんだしたら、きちんと加茂地区全体の地区に説明会を行って、みんないいよと言えれば、計画通り進めればいいと思う。ちょっと聞いたんですが、加茂とか内田以外の有識者の方が言われるには、あんな所ダメだよとはっきり言われている方がいるんですよ。私が市長に一番お願いしたいのは、住民と向き合った話し合いをして、物事を進めてほしい。これでは、一方的な取り決めで、議会で決まったからという形だけだと思う。もう一つは、7月の議会報告会で、議員の方が説明されるのに、聞いていると市当局の説明をしているという感じで、自分たちがこういう考え方で、あそこが絶対なんだというのではなくて、そういう話をして来いよと言われて言いに来たような感じでした。もう少し住民みんなが良いという所に決めていただきたい。今だったらまだ遅くない。お金の借金するやつも伸びたじゃないですか。そういうことを考えるともう少し住民を大事にしていきたい。それについて考えをお聞きしたい。

栗田健康福祉部長

ご意見ありがとうございました。この幼保園につきましては、老朽化していて環境が悪いということで、いろんな方面の方々から環境を良くしたところで

子どもたちを育てたいという声はずっと前からあがっていました。そうした中で、市でも基本計画を立てまして、その後も検討委員会を各地域の有識者の方を含めまして、自治会の方も入っていただいたりして、検討委員会を行ってまいりました。その結果、国の方針も多少変わっておりますけれども、幼稚園と保育園を一緒にして幼保園という形の中で、幼稚園と保育園の教育を一体化としてやっていこうという方向で決めたものでございます。今回、建物をあそこにすると決めましたのは、今までの環境から考えまして、子どもたちにとにかく広い場所を提供したいということがございまして、そうしたところを探した中で検討したところであります。最終的には検討委員会からもご意見をいただきまして、最終的に市と議会に報告させていただいて、南部農村公園というところに決めさせていただきました。それまでも、加茂幼稚園、内田保育園の保護者の皆様にもご説明してまいりましたし、自治会にもご説明させていただき、その中で議会にも承認をいただくなかで、今回の場所に決めさせていただきました。先ほど説明がありました通り、これから実施設計に入っていくということもございまして、そういったことについても加茂幼稚園、内田保育園の保護者の皆様にも担当課の方で説明にあがっているところでございます。それから、これから議会にも説明しながら進めていきますが、今までも説明の方はさせていただいておりますし、また、広報やちらしなどでこれから変更があった時には随時お知らせしていきますし、HPでも掲載していくつもりでございます。先ほど幼保園を考える会の方から、そういった情報をできるだけ出していくべきではないかというお話をいただきましたので、広報などの手段によりまして、皆さまにお知らせしていく状況でございます。建物が決まった経緯につきましては、そういった形ですのでご理解をよろしくお願いいたします。

市長

黒田さんから署名運動とか、市民ときちんと向き合っという話をいただきました。もう一つ今、議会報告会の中で市からこういった報告をするようにという話があったということですが、それは私どもと議会では、そういった事前の協議はしておりませんので、その点は誤解のないようにしていただきたいと思えます。

私もこの会場に来て、7・8年前から加茂地区の皆さんには、1日も早くこの加茂の幼稚園が老朽化して、狭いから新しい幼稚園を考えてもらいたいということで、私も検討してまいりました。そういった中で、市の幼稚園・保育園の先ほどお話ししましたように人口が減少していく、人口的なバランスを考えた場合にどのような幼稚園や保育園、あるいは幼保園を考えていかなければならないかということ、10年後、20年後のスパンでこれからの幼稚園・保育園を考

えてもらいたいということで、平成 19 年くらいに整備検討委員会というのを立ち上げていただき、その中で 2 年 3 年にわたりまして、いろいろと協議をしていただきました。その段階におきましては、やはり加茂幼稚園と内田保育園が非常に老朽化していますので、なるべく早く整備計画を立てていただいで、地域の子どもさんたちが幼稚園や保育園に通えるようにしていただきたいと、私の方からは検討をお願いしたところでもあります。従って、メンバーの皆さんも自治会の皆さんや有識者あるいは教育者、地域の関係者、保護者の皆様に協議をしていただき、加茂と内田の 2 箇所が候補地としてあがってきました。そういう中でこの間も黒田さんにお話しましたが、委員の皆さんからは 1 日も早く子どもさんたちを通わせてもらいたいということもありました。それだけではありませんが、もろもろの地域の皆さんからの声もありました。それも承知しております。そういったことを考える中で、今回の、先ほどもお話ししましたように、内田の農村公園を選定させていただいたということで、決して市民の皆さんを軽視しているということはありませんで、皆さんからいただいた要望やアンケートにつきましては、庁内におきましても検討して、できるものはできるし、災害に対する対応とか、あるいはこれからの幼稚・保育園行政についてどういう風にやっていくか、ソフト的な事など庁内で検討しながら、市民の皆さんに喜んでいただける幼保園の運営について検討していますので、ぜひその点につきましては、加茂地区の皆さんにもご理解いただきたいと思います。何年か前の話からになりまして恐縮ですが、先ほど話しましたように非常に広大なスペースで子どもさんたちが伸び伸びと保育できる幼保園としてこれからも取り組んでまいりますのでよろしく願いいたします。

三軒家自治会：(男性)

2 点ほどお願いがあります。1 点目は事前質問 の太陽光発電についてですが、先ほどからの市の話の中でどうも積極性がないという印象を受けました。というのは、こういうものを誘致する時に、市なんかの場合は、工業団地を造成して企業を誘致してそれをやってもらおうという姿勢があります。ならばこういう考え方で太陽光発電や風力発電をもっと積極的に市が活用して、受け入れ態勢までは作る。それをどう利用するかは民間に任せるぐらいの姿勢が必要でないかと思う。時代はそういう風に進んでいる。長野県の飯田市では、お日様ファンドというものをやっています。これは市の施設である幼稚園とか保育園とかの屋根を提供している。これをファンドとして募集をして、その人たちに利用してもらってお金を出してもらっている。市は直接かんでいるわけではなく、場所を提供しているだけ。これが、幼稚園とかの教育に非常に役立っているという話を聞いております。そういうやり方もある。公共施設をまず提供するな

かで民間のファンドみたいなものを要請して、そういった中で働きかけるぐらいの積極的な姿勢が市に要請されるのではないかと思う。時代が時代です。そういう方向に進んでもらいたい。例えば、秋田港に2つの風力発電があります。それは両方とも民間でやっているファンドのものですが、この1つに私も出資してまして、既に5年前に出資した元金と配当金をいただいています。そういう格好で全国でファンドがはやっている。そういう形で自然エネルギーを確保していくということを積極的にやっていくべきではないかという提案です。ぜひ飯田市に見学に行ってください。幼稚園の園児が非常に喜んで、いろんなイベントや催し物をやっています。

もう1点は、先ほどから出ている幼稚園の問題です。幼稚園については場所の問題等、私も問題だと思っていますが、自然災害と人的災害が考えられます。あの場所は誰が見ても危険だと感じています。土手と土手の間に挟まった、人っ子一人いない。畑に耕作に行く人以外おそらく通らない道でしょう。そういうことからすると、不審者やちかんの問題も考えられる。特に冬になると5時過ぎには真っ暗になる。外灯をつけるという話もありましたが、外灯をいくらつけても迎えに行ったこどもや親御さんとがどこかに引きずり込まれて叫んでも聞こえない場所です。

それは行ってみれば一目瞭然です。そういう状況が予想されるのに、あそこで作るといふこと。それから、あそこは前のように歩行で送り迎えするとか、自転車で送り迎えする場所ではない。車で行かなければ送り迎えできない場所です。これは加茂の人、みんなそうだと思います。そういう中で、万が一、ちかん等にあった人がいたら、それこそ救いを求めても恐らく無理だろう。何か被害が起きてから初めてスクールバスというようになるのではないかと思う。それこそ人的被害が起きてから信号を作るようなもんで、そういうことになりそう。未然に何とか防ぐ方策を講ずるべきはないかと思う。多くの人が危険だと思ふ場所にあえて作るメリットは何だろうと思います。たとえば、堀之内幼稚園と中央幼稚園までの距離を測ってみると、加茂幼稚園から南部農村公園までに行く距離と、堀之内幼稚園と中央幼稚園までの距離を測ってみると、堀之内幼稚園はちょっと近いんです。中央幼稚園はちょっと遠いんです。それでも100メートル単位です。そんな程度の距離で車で送り迎えするなら、恐らく距離は問題ないでしょう。私の子どもや孫がいたとしたら、そんな危険な場所に命をかけてまで行くよりも、堀之内幼稚園か中央幼稚園に通わせます。多くの人がそんな風を選択するのではないかと思う。そこで私は、堀之内幼稚園と中央幼稚園の定員を調べてきました。両方とも、加茂の人間や内田の人間が行っても十分に入れる余地があります。定員は半分以下になっていますので、ここに収容人員はあります。したがって、学区制でも敷けば別ですが、加茂の人間が、

命にはかえられないということで、堀之内幼稚園や中央幼稚園に行ってしまったらどうなるだろう。市は強行に施設を作ったけれども、一人も来なくなってしまったという世間の笑いものにならないように考えて欲しいということで、幼稚園については再考をお願いしたい。

企画政策課長

太陽光の話については、先ほど市長から説明があったとおり、菊川市としても将来の浜岡原発を考えた場合、再生エネルギーを増やしていかざるを得ないという時代の要請は共通だと思います。市が受け入れに積極的じゃないんじゃないかという質問ですが、まだ水面下で動いている話ですが、実は菊川市の南部の方で、かなりの広い規模で太陽光の発電の計画の検討が進められています。地元への説明もなされています。ただ、当然広い規模での土地利用ですので課題もあります。市も積極的に関わって調整等で動いていますので、市が何にもしてない訳ではございません。市もこういったものが必要だという認識の下に、民間事業者と協力して進めています。うまくいけば、近いうちに大きな新聞記事で、菊川が太陽光発電のかなりの先進地となるということもあるかもしれませんので、ぜひご期待いただければと思っております。

健康福祉部長

災害や、主に防犯面について非常に心配だというお話でしたが、その辺につきましても、先ほど触れさせていただきましたが、いろんな場面を想定しまして、メリットとしては非常に広い土地で、交通的にも道も広いですし、車の混雑がないところで、できるだけ伸び伸びと生活をさせてやりたいというところがございます。そうした中で安全性についてご意見をいただいておりますが、現在ももちろん検討していますが、災害や防犯に対する安全対策については、ハードも含めましてソフトと両面で必要性に応じて適切に対策を講じていきたいと考えていますので、出来るだけご意見をいただければ、反映できることは反映するという形で、なんとか対策はこれからも取ってまいります。またこれは、この幼保園に限らず、市全体の幼稚園・保育園にも関係することですので、安全対策をとるようこれからも努力してまいりますので、よろしくご理解のほどをお願いいたします。

(閉会：20:45分)